

児童発達支援・放課後等デイサービス ～5領域支援プログラム～

児童発達支援や放課後等デイサービスにおける個別支援計画は、子どもの状態やニーズを踏まえ具体的な支援内容を定めるものですが、令和6年度の報酬改定において、事業所が提供する支援の見える化を図るため個別支援計画に支援内容と「**5領域※との関連性を明確に示すことが新たに求められ総合的な支援の提供をする**」ことが基本となりました。

上記改正を受けて、こだま事業所では、5領域との関連性を考慮した、次の活動を実施し、支援のレベルアップを図ります。

- ・リスクアセスメントの実施
- ・支援プログラムの作成、実施、評価、改善
- ・日々の支援の実施

詳細は、次葉以降を参照ください。

5領域※

- ①健康と生活、②運動と感覚、③認知・行動、④言語コミュニケーション、⑤人間関係と社会性

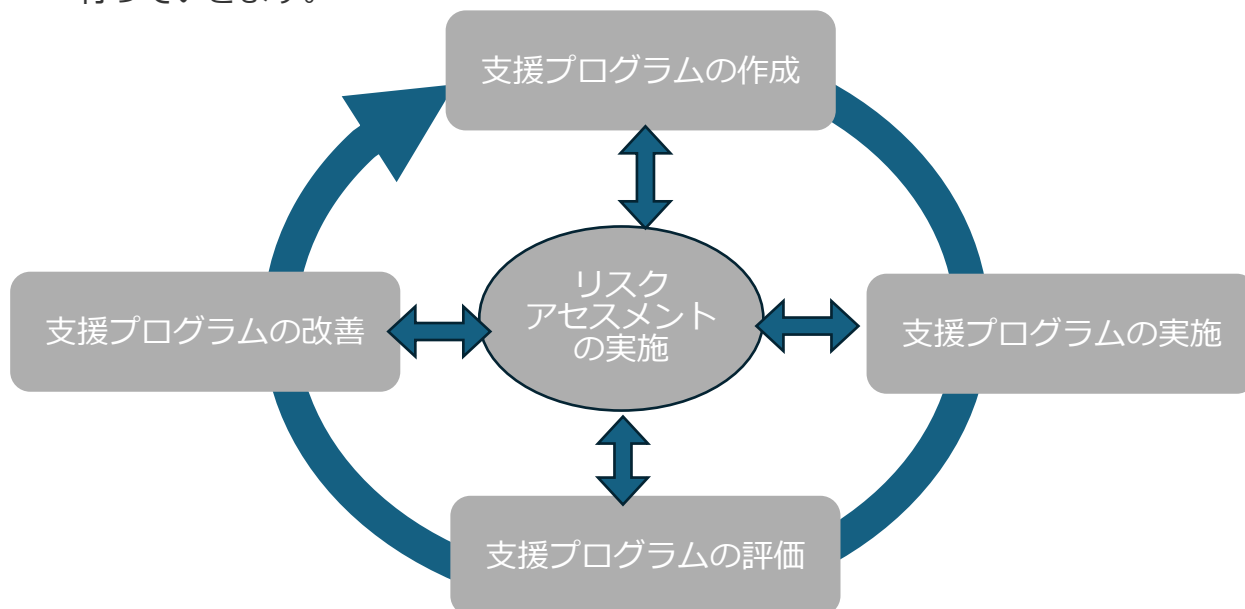


支援プログラム作成の流れ

① 継続的改善の実施

PDCAサイクルの「PLAN（計画）」「DO（実行）」「CHECK（測定・評価）」「ACTION（改善・対策）」の流れを定期的に行います。

お子様の状況や状態を把握し、身体的・精神的機能の適正な支援を行い、日常生活及び社会生活を円滑に営めるようにするために、一人ひとりの個別支援計画を作成し支援を提供していきます。適切な支援を提供するためにモニタリングにより必要な支援の検討・改善を行い、個別支援計画の見直し等を行う支援の一連の流れを定期的に行っていきます。



② アセスメントの実施（様式は別紙）

お子様の状況、状態を把握します。保護者様からの聞き取り、状況に応じたお子様からの聞き取り、職員によるお子様の直接観察、保育園や学校などの関連機関からの聞き取りなどから得られる情報をもとに実施します。

③ 支援プログラムの作成（個別支援計画様式は別紙）

アセスメントに応じ、それぞれの状況や課題に合わせて支援方法、内容を選択します。支援方法は、①小集団支援（児童発達支援、放課後等デイサービス）、②マンツーマン支援、③保育園や学校など社会生活での支援に分けられます。これらを組み合わせながらお子様に最も効果的な方法を検討します。アセスメントに基づき個別支援計画を作成します。個別支援計画は、保護者やお子様に説明し、同意を得て実施します。

④ 支援プログラムの実施

支援の内容は、お子様の発達や特性に合わせ、課題を設定します。小集団、個別それぞれに課題に取り組む時間を作ります。集団の活動は、達成基準をお子様に合わせ、できることから徐々に広げられるように関わります。

⑤ 支援プログラムの評価・改善

個別支援計画で作成した目標が、どの程度達成されたか評価を行います。評価は、実務対応している職員で行います。職員が考える達成度合いについて客観性が確保できるように留意し、その結果から児童発達支援管理責任者が個別支援計画内容を修正します。評価の結果、修正した個別支援計画については、再度、保護者様、お子様に説明し同意を得て職員の支援に反映させます。

5 領域活動プログラム

私たちは、こどもの発達全般や障害の特性・行動の特性等を理解し、こどもの今の育ちの充実を図る観点と将来の社会参加を促進する観点から、子どものウェルビーイングの向上につながる支援に努めます。

そのために、(A) 本人支援 (B) 家族支援 (C) 移行支援 (D) 地域支援・地域連携を総合的に提供していくものであり、「本人支援」の大きな目標は、こどもが様々な遊びや学び、多様な体験活動を通じて生きる力を育むとともに、将来、日常生活や社会生活を円滑に営めるように、さらに、「家庭」や「地域社会」での生活に活かしていくために学校と連携を図りながら進めていきます。

【児童発達支援】 (1/3)

5 領域	ねらい	内容	プログラム
①健康と生活	<ul style="list-style-type: none"> ◇健康状態の維持、改善 ◇生活習慣や生活リズムの形成 ◇基本的な生活スキルの獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ○健康状態の把握と対応 健康な心と身体を育て、健康で安全な生活を作り出すことのサポート。また、こどもの心身の状態をきめ細やかに確認し小さなサインでも心身の異変に気づけるようきめ細かく観察を行う。 ○日常生活の基本的な習慣（食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回り）を身につけ自分でできることを増やし、自己管理工夫を適切に支援する。 ○衣服の調節、室温の調節や換気、病気の予防や安全への配慮を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことを自分でできるようにする練習（手洗い、食事の準備、片付け） ・生活習慣の形成（時間を守る、片付けの習慣） ・自己管理や自立心を育てる活動
②運動と感覚	<ul style="list-style-type: none"> ◇姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 ◇姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用 ◇身体の移動能力の向上 ◇保有する感覚の活用 ◇感覚の補助及び代行手段の活用 ◇感覚の特性への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活に必要な動作の基本となる身体の使い方を身につける。 ○手先の器用さや細かな運動技能を養う。 ○視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚など遊び等を通して支援する。 ○障害の状態や発達の段階、興味関心に応じた情報を収集し、状況を把握する。 ○感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）を踏まえ感覚の偏りに対する環境調整等の支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な運動能力の向上（歩行、走る、跳ぶなど） ・手先の器用さを育む活動（積み木を積む、絵を描くなど） ・屋外での遊びや運動を通じて身体の発達を促進 ・スヌーズレンによる五感の刺激



【児童発達支援】 (2/3)

5領域	ねらい	内容	プログラム
③認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ◇認知の特性についての理解と対応 ◇対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得 ◇行動障害への予防及び対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人の認知の特性を理解し、自分に入ってくる情報について思考したり理解できるよう支援する。 ○感覚の活用や認知機能の発達視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分活用して判断や行動につなげることができるよう支援を行う。 ○認知や行動の手がかりとなる概念の形成物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、大小、数、重さ、空間、時間等の概念を図ることでそれを認知や行動の手がかりとして活用する支援をする。 ○感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防及び適切行動への対応の支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な問題解決や思考のトレーニング ・絵本やパズルを使った理解力の向上 ・図形や数の認識活動
④言語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ◇言語の形成と活用 ◇言語の受容と表出 ◇コミュニケーションの基礎的能力の向上 ◇コミュニケーション手段の選択と活用 ◇人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得 ◇状況に応じたコミュニケーション ◇読み書き能力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○障がいの状況、興味関心等に応じて、表情や身振り等、必要な基礎的な能力を身につけることができるように支援する。 ○話し言葉や各種の文字・記号等を用いて相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど言語を受容し表出することができるよう支援する。 ○体験や経験の積み重ねにより言葉の意味を結びつけること等により、自発的な発声を促し、言語を身につけることができるよう支援する。 ○相手と同じものに注意を向け、その行動や意図を理解・推測するといったコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 ○指さし、身振り、サイン等を用いて環境の理解と意思の伝達ができるよう支援する。 ○障がいの特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な会話の練習 ・はじまりの会、おわりの会で一言タイム（挨拶、名前を言う、簡単な質問に答える）



【児童発達支援】 (3/3)

5領域	ねらい	内容	プログラム
⑤人間関係と社会性	<ul style="list-style-type: none"> ◇アタッチメント（愛着）の形成と安定 ◇遊びを通して社会性の発達 ◇自己の理解と行動の調整 ◇仲間づくりと集団への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○他のこどもとの関わり方を学ぶ。 ○アタッチメント（愛着）の安定と感情が崩れたり、不安になった際に大人が相談にのることで安心感を得たり自分の感情に折り合いをつけたりできるよう「安心の基地」の役割を果たせるよう支援する。 ○模範行動の支援 遊び等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援する。 ○一人遊びから協同遊びへの支援 一人遊びの状態から並行あそびを行い大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担やルールを守って遊ぶことを通して社会性の発達を支援する。 ○自分の感情を理解し気持ちや情動の調整ができるように適切に表現する力を育む。 ○集団に参加するための手順やルールを理解しこどもの希望に応じて遊びや集団活動に参加できるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者との協力や順番待ちの練習 ・感情の表現や自己調整を促す活動

「こだま」って？

子どもたちの可能性は無限に広がっています。一人ひとりの個性を育てることで社会生活に順応できるすばらしい能力を発揮できることができます。

ご家庭の暮らしに加えて、こだまならではの遊びや食事、日常の活動通じて新しい感覚を身につけてより豊かな感性を育むことを目指しています。

こだまは、子どもたちの輝かしい、未来に向けて一緒に歩んで行くことをお約束します。



生きる力を育てよう



遊びの中で好きなこと
得意なことを見つけよう



感性を豊かに
自分を表現しよう

【放課後等デイサービス】(1/2)

5領域	ねらい	内容	プログラム
①健康と生活	<ul style="list-style-type: none"> ◇健康状態の維持、改善 ◇生活習慣や生活リズムの形成 ◇基本的な生活スキルの獲得 ◇生活におけるマネジメントスキルの育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○体調や気分の自己評価表を取り入れ、子ども自身が管理できるようにサポート ○様々な場面で自分でやってみる機会をつくることで、できるに繋がるサポート ○持ち物の管理 ○マナーやルール 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な心身の把握（体温計測・気分把握） ・衣服の着脱（排泄後、外遊びや水遊び等） ・身だしなみや整え方 ・食事マナー（手洗い、準備、片付け） ・クッキング活動による食育
②運動と感覚	<ul style="list-style-type: none"> ◇姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 ◇姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 ◇保有する感覚の総合的な活用 ◇感覚の特性への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○筋力と柔軟性に着眼したメニューの継続実施により日常生活の動作をスムーズにするサポート ○視覚の機能による「追いかける」「見比べる」「遠近」の運動メニューを取り入れる ○視覚、聴覚、触覚、嗅覚、固有覚、前庭覚などの感覚活動 ○掴む、支える、滑るなどの要素を取り入れた遊具遊びの提供 ○スヌーズレンによる光、音や音楽、香り、色々な触る素材、動きの感覚刺激 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園に行き遊び ・バランスボールでの姿勢保持 ・音楽に合わせて体を動かす遊びや運動 ・指先トレーニング ・スヌーズレンによる五感の刺激
③認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ◇認知の発達と行動の習得 ◇空間、時間、数等の概念形成の習得 ◇対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得 ◇行動障害への予防及び対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども同士で見て学ぶことや言葉以外のコミュニケーションによって周囲の環境から状況を把握し行動を起こしていくための認知能力のサポート ○時間、数、量などの感覚も運動の中で「体感する」ことで習得を促すサポート ○言葉や文字、図や音など複数の表現で数をはじめとする基本的な概念を体感できるようにサポート ○「見て学ぶ・お手本をする」などを通じて状況の理解と行動を連動させられるような仕掛けをつくるサポート ○物の機能や属性、形、色、音が変化する様子の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールやルールの提示など視覚ツールの活用 ・粘土、スライムによる物質の変化と感覚認知 ・ブロック遊びによる空間把握の認知形成 ・季節の変化への外出、行動 ・小集団でのゲーム
④言語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ◇言語の形成と活用 ◇言語の受容と表出 ◇コミュニケーションの基礎的能力の向上 ◇コミュニケーション手段の選択と活用 ◇読み書き能力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもと職員双方向のコミュニケーションを重視した環境づくり。子ども自身が「どう思ったか?」「どう感じたか?」などを発言する機会をつくるだけでなく「説明」や「友達への情報伝達」の機会を通じて出来事やイメージを言語化し人に伝える経験をサポート ○文字や図形、見本を見せることなどの音声言語でないコミュニケーションを通じてコミュニケーション能力のサポート ○絵カードによる適切なコミュニケーション手段を選択・活用 ○はじまりの会や終わりの会で今日の気分、気持ち、振り返りなどをプレゼンテーションして言語表出・受容 ○「イエス・ノー」カードのツール活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・はじまりの会、おわりの会で一言タイム ・自己紹介、他己紹介 ・

【放課後等デイサービス】(2/2)

5領域	ねらい	内容	プログラム
⑤人間関係と社会性	<ul style="list-style-type: none"> ◇他者との関わり（人間関係）の形成 ◇遊びを通して社会性の発達 ◇仲間づくりと集団への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ○あいさつや感謝の言葉が言える。自分の物の整理整頓、プログラムの準備や片付けなど自発的に取り組めるように、また、他のお友達と協力したり、素早く行動するなど社会へのつながりサポート ○お友達のお手本を見たり、行動を真似することで友達に対して「すごい」「かっこいい」「自分でもできるようになりたい」などの内発的なモチベーションを引き出す工夫 ○集団ならではの友達と共同で達成できる課題に取り組み、みんなで過ごす楽しさを学び社会性に繋げる ○アタッチメント形成（個別面談で自尊心を高める、認める） ○ルール理解が必要な遊びや集団活動 ○役割分担のある遊びなどの協同遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域施設などへの社会見学 ・交通安全学習 ・地域学童保育との交流 ・イベントなどを通じた地域との交流

こだまの施設

運動、製作、お手伝い、クッキングなどお子様の興味に応じて、各グループで、様々ですが、楽しく活動する中で、自分ができることを増やしていきたり、お友達と関わっていくことで、心と体の成長を育んでいきます



こだまの主な施設

ワークスペース、ランチルーム、ディールーム、プレイルーム
 コリドー、スヌーズレンルーム、ホール